



Coca-Cola

BOTTLERS JAPAN INC.

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

資源循環型社会に向けたご提案 ボトルtoボトルの推進

Coca-Cola BOTTLERS JAPAN PRESENTATION 2022

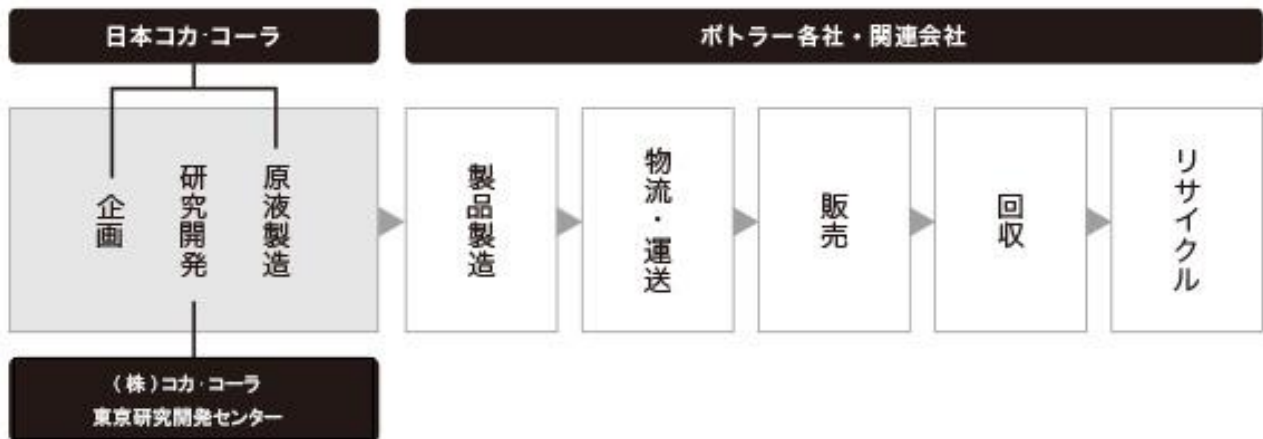
2022年7月15日
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

会社概要

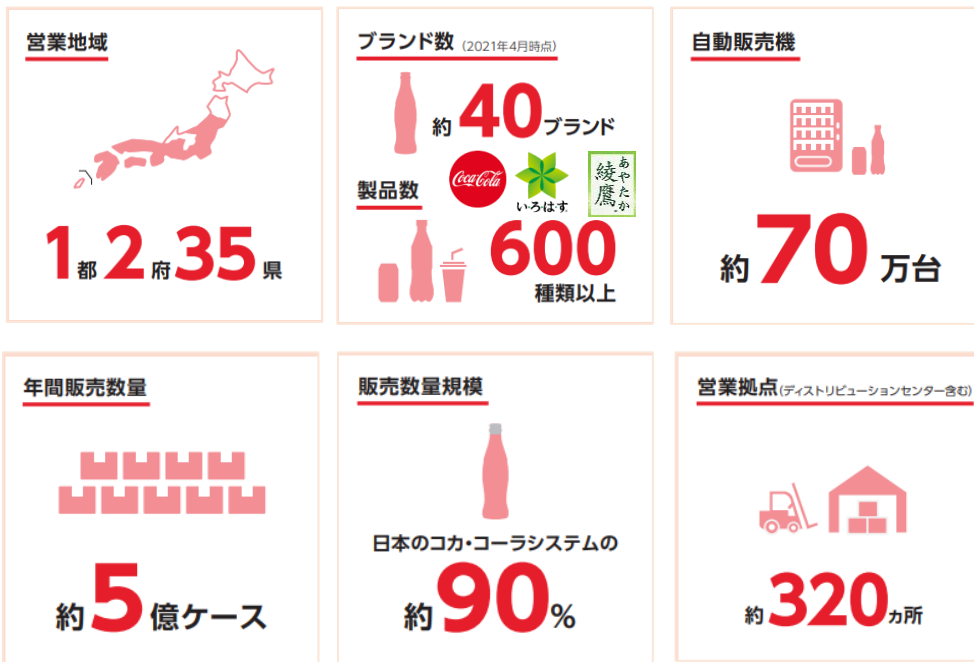


日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と飲料製品の製造・販売などを担う5つのボトラー社・関連会社で構成されています。
全国のコカ・コーラシステムの従業員数は約2万人、工場は22カ所（原液を製造する守山工場含む）あります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、アジア最大級のボトラー社です



数字で見るコカ・コーラボトラーズジャパン



日本のボトリングパートナー 5社





サステナビリティ活動指針

活動目的/想い

コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます

3つのプラットフォームと9つの重点課題

各領域における持続可能な開発目標（SDGs）との関わりを検証し、SDGsの達成を目指すことで社会課題の解決に貢献します



コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングス(CCBJH)グループの目標「CSV Goals」



- CCBJHグループは、3つのプラットフォームである「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の課題も踏まえた独自のコミットメント「CSV Goals」を発表しております。
- この「CSV Goals」の達成によって、本業を通じた社会課題の解決を実現していきます。

2022年6月更新

「CSV Goals」

「CSV Goals」は、社会変化をふまえて持続可能な未来の実現に向け、取り組むべき課題を抽出した上で、「環境」「社会」「ガバナンス」分野におけるCCBJHグループのコミットメントを明示したものです。

製品

- **100%** 主要ブランドでのノー/低カロリー製品のラインナップ
- **300%** 特定保健用食品(トクホ)および機能性表示食品の販売数量増(2016年比)
- **100%** パッケージ前面でのカロリー表示およびわかりやすい栄養表示
- **100%** コカ・コーラシステム「責任あるマーケティングポリシー」の遵守

水

- **200%** 水源涵養率。工場近辺の水源、流域に注力
- **30%** 水使用量削減(2030年までに)

気候変動

- **50%** 温室効果ガス削減 スコープ1、2(2030年までに)
- **30%** 温室効果ガス削減 スコープ3(2030年までに)
- 温室効果ガス排出量実質ゼロ(2050年までに)
- 再生可能エネルギーの推進

World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)

- **50%** サステナブル素材*の使用率(2022年までに)
- **100%** サステナブル素材*の使用率(2030年までに)

設計

- **100%** サステナブル素材*使用製品の割合(販売本数ベース)
- **35%** さらなるPETボトルの軽量化(2004年比)(2030年までに)

回収

- **100%** 販売量と同等の回収量(2030年までに)

パートナー

- 環境保護団体や業界団体との幅広い連携(2030年までに)

*サステナブル素材: ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

調達

- **100%** 持続可能な原材料調達

人権

- **100%** CCBJHグループバリューチェーン上でのサプライヤー基本原則(Supplier Guiding Principles)の遵守

ダイバーシティ&インクルージョン

- **10%** 女性管理職比率(2025年までに)
- **20%** 女性管理職比率(2030年までに)

社会

- **10%** 社員のボランティア参加率
- **100万人** コミュニティプログラム参加人数累計

記載のない限り、基準年は2015年、目標年は2025年



日本のコカ・コーラシステムが目指す『廃棄物ゼロ社会』

日本のコカ・コーラシステムでは、グローバルビジョン「World Without Waste」(廃棄物ゼロ社会)に基づき、2018年1月、「設計」「回収」「パートナー」の3本の柱から成る「**容器の2030年ビジョン**」を設定しました



「World Without Waste」(廃棄物ゼロ社会)

2030年までに、世界で販売する製品の販売量に相当する缶・PET容器をすべて回収・リサイクルする



「今や、世界中の消費者が地球環境のことを意識する時代です。
(中略) グローバルに事業展開する清涼飲料企業として、世界的な容器問題を過去のものとするべく、容器回収とリサイクルに資金と人的資源を投入し、地球を守る努力をしています」
(ジェームズ・クインシーCEO, ザ コカ・コーラカンパニー)

「容器の2030年ビジョン」3つの柱

「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」の実現には製品のライフサイクルにおける包括的な取り組みと、地域社会のパートナーとの協働が不可欠であるとの認識のもと、「容器の2030年ビジョン」は「設計」「回収」「パートナー」という3つの柱で構成しています。



容器の原料や形状をサステナブルなものにしていくこと「ボトルtoボトル」リサイクルの推進



販売した自社製品と同等量の容器を回収&リサイクル

政府、自治体、飲料業界、地域社会との協働を通じ、より現実的な容器回収・リサイクルスキームの構築と維持

容器の2030年ビジョン



2030年には、全てのPETボトルを100%サステイナブル素材に

日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン」



サステイナブル素材
使用率

※2020 までは
ボトル to ボトル比率



100%

すべてのPETボトルを
サステイナブル素材に切替

サステイナブル素材
を使用している
製品の割合

(販売本数ベース)

90%以上



100%



すべてのPETボトルに
サステイナブル素材を使用

コカ・コーラ システムが推進するボトル to ボトルとは？



ペットボトルは、優れた容器で環境負荷が低い容器。さらにボトル to ボトルで環境負荷低減に

PETボトルは再資源化が可能な環境にやさしい容器

PETボトル

ポリエチレンテレフタレートからつくられます。

単一素材で、資源としての価値が高く、リサイクル性に優れています。

※PETボトルリサイクル推進協議会HPより

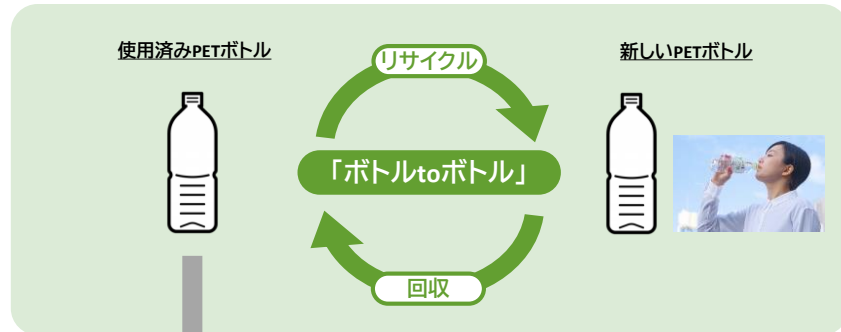


一般的なプラスチック容器

用途に応じた複合材料を使用。

複合素材で、材料リサイクルには不向きですが、軽くて丈夫で、保存性が高い素材です。

※一般社団法人 全国清涼飲料連合会



PETボトル以外に
リサイクルされると...

現状、使用後に廃棄
される率は高い

ペットボトルを資源として循環利用する“ボトルtoボトル”

「廃棄物ゼロ」を実現する“ボトル to ボトル”



『ボトル to ボトル』取り組み事例



- 旗艦製品に100%リサイクルPETボトルを導入
- パッケージには「リサイクルしてね」ロゴを掲示し、お客様とのコミュニケーションを強化しています

100% リサイクルPETボトル/リサイクルしてねロゴの導入



リサイクルしてね
いつもありがとう、またよろしくね



リサイクルしてね
100%リサイクルPET



プラスチック量の削減

CO₂排出量

石油由来原料から新たにつくられる
プラスチック量

↓ **60%** 1本当たり

↓ **30,000**トン

※一般的なPETボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合

※対象製品合計・年間当たり。前年出荷実績に基づく当社試算

↓ **35,000**トン

※対象製品合計・年間当たり。前年出荷実績に基づく当社試算



2022年4月12日 埼玉県吉見町様との「ボトルtoボトル」協働事業開始



● 包括連携協定の一環として取り組みを開始



YAHOO! JAPAN ニュース mak***** 残高あり (全額を表示する) 対象ストアのお買い物がオトク!

キーワードを入力

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

コカ・コーラ社で初、自治体と協働でペットボトル水平リサイクル、埼玉県吉見町と包括連携協定

4/13(水) 19:13 配信 2



コカ・コーラ ボトラーズジャパンは4月12日、ペットボトルの水平リサイクル「ボトルtoボトル」事業で、埼玉県吉見町と協働すると発表した。

プラスチック資源の循環利用を推進する取り組みだ。水平リサイクルとは、同じものから同じものに生まれ変わるリサイクルの形のこと。コカ・コーラ社が、使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の取り組みを自治体と協働するのは初めて。今後は、他の自治体との取り組みについても検討していく考え。

(左から)コカ・コーラ ボトラーズジャパンの渡邊真琴部長、宮城町長、奥西工場長

日本経済新聞

トップ 速報 オピニオン 経済 政治 ビジネス 金融 マーケット マネーのまなび テック 国際 スポーツ

コカ・コーラと埼玉・吉見町、ペットボトルを再生利用

SDGs +フォローする

2022年5月20日 19:01

保存

共有アイコン



4月以降の協働取り組み例



● ボトルtoボトル以外の取り組みご紹介

町民向けのチラシ作成

- 全町民への回覧配布
- イベントでの配布
- 町役場での配布

地球温暖化防止パネル展協力

- 特殊リサイクルボックス貸し出し
- パネル展示
- 来場者用特典協賛

クリーンな町に向けた協働活動

- 6月3日 清掃活動実施
- 組成分析協働実施



【ストップ温暖化パネル】



【ボトルtoボトル事業紹介】



【はらぺこベトベター】



【地球温暖化防止パネル展（全体）】



Bottle to Bottle推進のメリット



- 現行のプロセスを踏襲した形で資源循環型社会の実現が可能
- 使用したボトルがまた販売されるボトルとして戻ってくる分かりやすいコミュニケーション
- 社会全体でのCO2削減への寄与

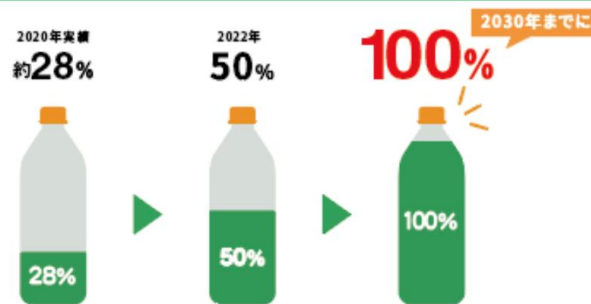
コカ・コーラと取り組む意義

業界No.1の実績
2021年:40%達成

圧倒的な
販売網・認知力



「容器の2030年ビジョン」
すべてのPETボトルを100%サステナブル素材に切替える



リサイクルへの関心を一丸となってさらに高め、
これからの循環型社会に向けた取り組み・活動を一緒に是非考えていきませんか？

ご清聴
ありがとうございました

Coca-Cola
BOTTLETS JAPAN INC.

